

自在に変えられる 手術システムを九州初で 導入し、看板手術を拡充

手術室の間仕切りや手術台の位置・角度が自在に変えられる

医療法人 佐田厚生会 佐田病院（福岡市、佐田正之理事長・院長）はドイツ・MAQUET社の新手術システム「VARIOP」を導入し、この1月から稼働させている。同社は世界最大の医療コンサルティング会社で、新手術システムは全世界1550病院で導入。九州では初めての導入だ。手術室内の間仕切りや手術台の位置・角度などが自在に変えられるモジュール（交換可能な部品構成）による手術システム（Variable Operation）が、従来の手術室の概念を一新する。



佐田正之理事長・院長

医療法人 佐田厚生会 佐田病院（福岡市）は新手術システム「VARIOP」の稼働で、「より患者本位の医療体制が充実する」（佐田正之理事長・院長）と期待を寄せる。同病院8階にある新手術室はゆったり広め。清浄な空気と衛生的な空間が保たれており、室内の整理も行き届いている。医師看護師などの動線と作業スペースが確保され、器材やコード類はコーナーに収納されている。明かり取りから自然光が差し込む中、BGMが流れ、壁面には自然や植物があしらわれ、柔らかな雰囲気

福岡で初めて胆石症の腹腔鏡下手術を導入し、実績日本一

同病院は1940年に外科病院としてスタート。これまで胃・大腸・胆のう・肝臓・膵臓などの治療で実績と評価を積んできた。しかし、周辺には大規模な公的病院が複数あり、厳しいせめぎ合いが続いてきた。前院長の佐田増美氏の跡を継いだ佐田理事長・院長は91年、他病院に先駆け腹腔鏡下外科手術を導入。傷



まるで、スペースシャトルの船内を思わせるような手術室内。これが「世界基準」だ



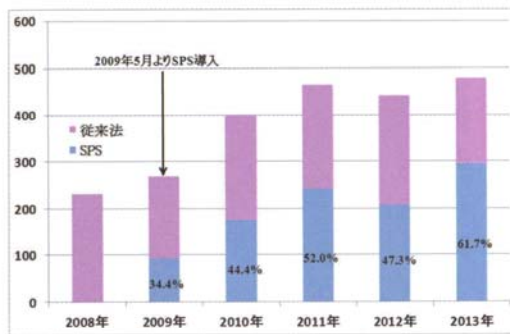
治療上の必要性に応じ、手術台などの部品は、着けたり外したり交換したりができる

回復が早いと評判になり、2013年12月末までの腹腔鏡下胆のう摘出術の累計件数は6900例で日本一の実績を誇る。さらに09年5月よりおなかに開ける穴がひとつで、より体への負担が少ない単孔式手術（SPS）を開始、累計件数は13年12月末で1018例を数える。

創り出している。これまでの手術室にありがちな外部から遮断された無機質で緊張を強い印象を「一新」、「安全で快適で、心身共にリラックスしていただけ」スペースとシステムが整った。

最新の外科手術に加え、新手術システムが稼働して、福岡都心部の急性期病院としての存在感が高まることは言うまでもない。

佐田病院における腹腔鏡下胆のう摘出術の近況



※SPS…Single Port Surgery (単孔式腹腔鏡下出術)